

令和5年度 栃木県立大田原高等学校 学校評価シート



<p>校訓 質素堅実</p>	<p>教育目標</p>	<p>(1) 真剣に学習に取り組み、豊かな創造力と正しい判断力を養う。 (2) 心身を鍛練し、不屈の精神と逞しい実践力を養う。 (3) 自他を敬愛し、感謝の心と奉仕の態度を養う。 (4) 規律と責任を重んじ、協同・連帯の精神を養う。</p>
-----------------------	--------------------	---

学校自己評価			学校関係者評価		
学校自己評価の評価実施計画			達成状況と改善策		
本年度の重点目標	具体的方策	方策の評価指標	方策の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
「質素堅実」の具現化	あらゆる機会(SHR・授業・学校行事等)を通して基本的な生活習慣を確立させるとともに、規範意識や安全意識を高め、自ら考え責任を持って行動できる判断力・行動力を身に付けさせる。	・組織的な指導の効果により、規範意識や安全意識が高まり、問題行動や交通事故等の発生件数が少なかった。…A ・指導の結果、規範意識や安全意識が高まり、学校生活全般に落ち着きが見られた。…B ・学校生活の乱れが散見された。…C	問題行動5件(いじめ3件含む) 交通事故14件	B B	全体としては落ち着いた生活が送れている。問題行動は浅い考えから起こっており、問題を起こす前に考えられるようにさせたい。いじめについては細かなものにも即座に反応し対応した。交通安全については指導し続けるしかない。
	感染症によって中止や規模縮小となっていた85キロ強歩等の各種学校行事について、引き続き対策を講じつつ、高校生活の良い思い出となるよう計画し実施する。	85キロ強歩・寒稽古実施後の生徒アンケートで行事の満足度が高い生徒の割合 ・80%以上……A ・60%以上……B ・60%未満……C	綿密な準備のもと各行事を実施できた。強歩は途中中止になったが、生徒の安全を考えた適切な判断だった。満足度調査では、最後まで歩けず残念だったという意見が多くみられたこともあり、満足度は31%にとどまった。寒稽古については、全体の77%の参加があり、5日間とも実施することができた。参加者の満足度は高かった。	B	強歩については、天候、熱中症、さらにはクマ出没など、あらゆるリスクを想定した行事の計画、また、不測の事態における計画変更やエスケープルート、代替案など、細部まで検討して計画を立案したい。寒稽古は、最終日のみ校外コースで実施したが、PTAの協力もあり安全に実施できた。引き続き安全面に配慮した計画立案を行う。
「大高教育力」の充実	教科間の連携をとり、学習全般を通して生徒自身が現状を確認して計画的に学習を進めていく力を育てる。ICTの活用法等、授業研究を進め、授業見学を通して指導の内容・方法の改善に努め、生徒の学力向上を目指す。	生徒の授業アンケートで「態度」「積極性」「集中度」の肯定的な回答の割合(上記3つの観点の平均値をとる。) ・80%以上……A ・60%以上……B ・60%未満……C	肯定的回答の平均は86%であり、生徒は意欲を持って積極的に授業に臨んでいる。また授業の中で「深く考えたり、広く考えたりできた」と回答したのは82%で、各授業で行われている指導の工夫が深い学びにつながっていると思われる。	A A	生徒の自己評価を活かして各自がどのように学習に臨んでいくのかを考えさせ、教科内、教科間での授業研究を通して生徒それぞれの課題に取り組んでいける授業を目指す。
	面接指導を充実させることで、進路目標を明確にさせたり、また、日常生活上の悩みや不安を解消させたりする等、生徒一人ひとりに適した指導を全教職員で組織的に展開する。	生徒アンケートで面談の満足度が高い生徒の割合 ・80%以上…A ・60%以上…B ・60%未満…C	面談に関するアンケート結果(抜粋) ①3~5回 55.7%、6~8回 16.1%、9~14回 6.6%、15回以上 4.3% ②適切なアドバイスか？ ・とてもためになった 73.8% ・少しためになった 25.1% ③面談は満足できたか？ ・大変満足した 70.9% ・少し満足した 27.5%	A	全体の平均では各学期2回、年間6回程度。担任だけでなく、副担任、部活動顧問、養護教諭等、関係する様々な教員と面談している生徒も多い。生徒の面談に対する満足度は高い。学習・進路に関する面談では、量だけでなく質の向上も目指したい。また、生活上困難を抱える生徒が相談しやすい環境づくりを更に進めていきたい。
SSH活動の深化	高大連携を拡充させることで、課題研究プログラムの内容を深化させる。	・高大連携が更に拡充され、昨年比でプログラムの深化が見られた。…A ・昨年と同等の高大連携は図れた。…B ・高大連携が昨年比で大きく減少した。…C	国際医療福祉大学・宇都宮大学と正式に高大連携に着手できた。I期目での連携先の整理・拡充を図ることができ、課題研究プログラムの深化につなげることができた。	A A	地元の大学との高大連携は、現在相手側の事務手続き待ちである。連携後はより広い分野の教授や学生との関わりを深め、課題研究を深化させたい。また、高大連携だけでなく幅広い外部人材活用を進めていく。
	SSHの各事業について、全校体制での取組を進め、I期目の活動を総括し、多方面からの情報を収集し、計画的にII期目の申請に挑む。	・十分なI期目の総括をもとに、満足のいくII期目申請ができた。…A ・I期目の総括に一部課題は残しつつも、入念な準備のもとII期目申請を進めた。…B ・I期目の活動の総括が十分にできず、II期目申請に課題が残った。…C	I期3年目の中間評価で明らかになった課題への対応や、未実施であった海外交流の今後の方向性の検討等、I期目の総括は十分にできた。II期目の申請は、運営指導委員の先生方、管理機関(県)、同窓会等の協力も得られ、充実した研究計画を立てることができた。	A	II期目の計画は、I期目とは課題研究を1年から始める等大きく異なる。また「SS探究」の実施曜日が変更になるため、職員全体での早期情報共有を図る。

学校関係者評価
実施日令和6年3月18日
評価と意見
<ul style="list-style-type: none"> ・自転車のヘルメット着用を促したい。 ・散歩中、自転車通学の生徒より元気な挨拶を受ける。高校生になると挨拶が少なくなる傾向になるが、社会での基本は挨拶であることを学ぶべきだ。 ・交通事故や問題行動の予防は、想像力を養うことが重要である。
<ul style="list-style-type: none"> ・強歩に関しては大きな行事のため、判断が難しいかと思うが、安全面を考慮しての中止判断は良かったと思う。 ・しかし、中止は生徒にはとても残念なものようだ。できるだけ完遂を願う。 ・強歩は伝統ある行事なので有意義。しかし、逆に入学希望者を減らしていることは無いか調べてもよいのではないか。 ・寒稽古の参加者が増えることを望む。
<ul style="list-style-type: none"> ・教員の指導とサポートにより、生徒たちが自主的に学習し成果を上げていくのは、大田原高校の特長と感じる。 ・教育力の最終効果は何か、進学し社会に出てどのように感じているか、双方で知るべき。 ・教員が自由にICTアプリを選べるような環境づくりを進める。
<ul style="list-style-type: none"> ・面談の前にMicrosoft Formsなどで生徒の思いをいつでも集められるような取組があつてよい。 ・大学進学にあたり奨学金を利用する生徒が増えている。後に苦労や後悔をすることの無いような丁寧な指導を。 ・面接指導に対する生徒の満足度も大切だが、面接による最終効果はどうであったか。先生の指導効果として確認すべき。
<ul style="list-style-type: none"> ・SSH事業での社会に目を向けた取組はよいので、さらに推進してほしい。協力できるところは協力したい。 ・中間発表会、最終発表会では足りない面もあったが、短い高校生活の中での取組としては十分に評価できる。
<ul style="list-style-type: none"> ・課題研究を演繹法的、帰納法的、どのように進めるか、それぞれの場合にどのように指導するか等、課題研究の指導法をさらに検討するがよい。 ・他のSSH校が取り組む課題研究の予稿を本校の生徒がいつでも見られるような環境づくりをするとよい。